

7) 学術委員会

委員長：松村 一

委員：青木 昂平、小川 令、小山 明彦、檜山 和也、加藤 達也
小久保健一、清水 雄介、土佐 泰祥、成島 三長、野村 正
林 利彦、林田 健志、松峯 元、三川 信之、宮本 純平
八巻 隆、吉龍 澄子

開催年月日：①2023年7月27日（学術委員会 zoom）

②2024年2月29日（LMS委員会 zoom）その他、適宜メール委員会

活動の概要：

- 2023年10月19日、秋季学術講習会のe-learning配信を「炎症・変性疾患」をテーマとして開始した。
 - 「顔面神経麻痺の診断と治療」
松田 健（新潟大学医学部 形成外科学教室）
 - 「眼瞼下垂の診断と治療」
清水 雄介（琉球大学大学院医学研究 科形成外科学講座）
 - 「リンパ浮腫の診断と治療」
山本 匠（国立国際医療研究センター 形成外科）
 - 「その他の変性疾患の診断と治療」
小野 真平（日本医科大学付属病院 形成外科）
- 形成外科学会として専門医教育のためにLMS（Learning Management System）を立ち上げることにに関して委員会で決定した。それに伴いLMS委員会を立ち上げた。
LMS委員会（委員長：加藤達也、松村一、青木昂平、清水雄介、野村正、三川信之）
- LMSに関して各社（Moodle株式会社イーラーニング、Canvas LMS ボウ・ネットシステムズ株式会社・in canvas キヤノン IT ソリューションズ株式会社）の見積もりを基にシステム運用をどの会社にするか選定した。年間の管理費用については3社の見積もりに大きな違いは無いが、Canvas LMS ボウ・ネットシステムズ株式会社の共有型サービスだと、他の学会ともコンテンツを共有することが可能なため、Canvas LMS ボウ・ネットシステムズ株式会社の共有型サービスをシステムとしてLMS委員会では選定した。理事会に見積書と共にシステムの承認依頼を提出予定。第一のコンテンツ作りを2024年4月～6月に予定。コンテンツは学術委員内（LMS委員を除く学術委員全体）で内容をレビュー（個人情報や内容等）予定。また、2024年（春）学術講習会のビデオをLMSのコンテンツに今後含めていいか確認を取る予定。
- 2023年度学術奨励賞は機関誌以外の掲載論文に関して公募を行い、計20編（基礎部門5編、臨床部門15編）の応募があり、候補論文編（基礎部門3編、臨床部門3編）を理事会に上申した。
- 2024年4月10日、春季学術講習会のe-learning配信を「四肢の再建外科」をテーマとして開始予定。現在3月5日の時点で、学術委員会内で各講習会ビデオのレビュー中。
 - 「切断肢指」
柳林 聡（新東京病院形成外科）

- (2) 「筋・腱・靭帯損傷」 鳥谷部 荘八 (仙台医療センター形成外科手外科)
- (3) 「血管・神経損傷 (含むコンパートメント症候群。切断指を除く)」
松末 武雄 (関西電力病院形成外科)
- (4) 「軟部組織欠損 (再建)」 上 菌 健一 (九州大学形成外科)

7-i) 用語アドホック委員会

委員長：鳥山 和宏

担当理事：松村 一

委員：朝村 真一、飯田 拓也、漆舘 聡志、檜山 和也、河合建一郎
小久保健一、権太 浩一、清水 史明、多久嶋亮彦、富田 興一
永竿 智久、林田 健志、松峯 元、吉龍 澄子

開催年月日：適宜 e-mail 委員会

主な議題：

形成外科用語集第5版の資料再作成と今後用語集更新の方針検討

活動の概要： 前回の用語集の発刊から15年が経過して改訂が必要と思われる。

1. 第5版以降の用語委員会の経緯を理事会議事録から確認した。当初日本医学会用語集と統合を図る予定であったが、両者の乖離が大きく断念した。
2. 形成外科用語集第5版からエクセルの資料を作成した。
3. 用語集の改訂に向けて方針を議論中である。日形会誌、JPRS 誌などのジャーナルに投稿された論文からキーワードを拾い挙げて用語の候補にする方針と AI を利用して用語の候補を拾い挙げる方針につき検討している。